

忘れ得ぬ名曲の数々と共に、伝説に生きる不滅のグレン・ミラーサウンド

グレン・ミラーオーケストラ

THE GLENN MILLER ORCHESTRA

★主なレパートリー

ムーンライト・セレナーデ／真珠の首飾り

ダニー・ボーイ／イン・ザ・ムード

セントルイス・ブルース・マーチ

アメリカン・パトロール

茶色の小瓶 ほか

Leader/Larry O'brien

リーダー/ラリー・オブライエン

在りし日のグレン・ミラー
(1904~1944)

宝くじ文化公演

平成21年11月26日(木)

開場 18:00 開演 18:30

羽村市生涯学習センターゆとろぎ大ホール

全指定席
一般 2,500円
高校生以下 1,500円

※宝くじの助成により、特別料金になっています。
※未就学児の同伴・入場はご遠慮ください。
※一時保育あります…1歳半～未就学児(有料)(要予約)(先着15名)(詳しくはゆとろぎまで)
※駐車台数に限りがありますので公共交通機関をご利用ください。

主催/羽村市、羽村市教育委員会、東京都、(財)自治総合センター

■入場券前売所■

ゆとろぎチケットカウンター(月休)
☎042-570-0707
羽村市スポーツセンター(月休)
☎042-555-0033
マルフジ各店(羽村・青梅・福生地区)
西多摩新聞社チケットサービス(土日休)
☎0120-61-3737

2009年8月23日(日)

前売り開始

ゆとろぎチケットカウンター
他は翌営業日から発売



宝くじは
豊かさ築く
チカラ持ち。

お問合せ

羽村市生涯学習センターゆとろぎ
電話042-570-0707

宝くじは、広く社会に
役立てられています。

THE GLENN MILLER ORCHESTRA



ラリー・オブライエンと グレン・ミラーオーケストラ～ ますます高まる人気の秘密

グレン・ミラーオーケストラが殆ど毎年来日しているが、その人気は衰えるどころか21世紀に入って、ますます全国的な評価が高まっている。11月から12月にかけて、全国各地の大ホールで30回のコンサートを開き、何度も90%以上の高い稼働率を記録している。グレン・ミラーは、1904年生まれのアリソン奏者で作曲家。1930年代アメリカのスウィング全盛時代にキラ星の如く沢山活躍したビッグ・バンド界に、ベニー・グッドマンやトミー・ドーシー、アーティ・ショウなどなどの人気リーダーより後発で仲間入りしたにも拘わらず、1938年「ムーンライト・セレナーデ」の大ヒットで名声を高めてトップ・バンドとなり、1942年応召して陸空軍バンドの指揮官となったが、1944年英仏海峡の空に戦死した。以降65年近く経っているのに、今日もグレン・ミラーオーケストラが継承されているばかりか、グレン・ミラー音楽は世界中で、プロ・アマを問わず演奏され続けている。

その秘密はどこにあるのか。日本でグレン・ミラーオーケストラの人気が高まったのは、

1945年に戦争が終って再びジャズやアメリカン・ポップスを楽しめるようになってからのこと。そして、1954年に公開された映画「グレン・ミラー物語」がグレン・ミラー・ファンの層を飛躍的に広げた。グレン役のジェームス・スチュワート、妻ヘレン役のジュン・アリスンが好演した映画は、グレン・ミラー音楽の誕生と発展を夫婦の愛情とともに描き、人々を感動させた傑作。この温かくてロマンティックな魅力は、グレン・ミラー音楽の魅力そのものである。

プログラムは休憩をはさんで1部と2部各50分づつアンコールを含めて、全28曲演奏した。勿論誰もが知っている大ヒット曲は殆ど全部きかせる。「ムーンライト・セレナーデ」を始め、「ペンシルバニア 6-5000」「茶色の小瓶」「セントルイス・ブルース・マーチ」「タキシード・ジャンクション」「アメリカン・パトロール」「真珠の首飾り」「アット・ラスト」などおなじみのメロディが、オリジナルのグレン・ミラーオーケストラに劣らぬ整然としたアンサンブルで美しく演奏される。何しろ現在世界中で一番忙しいバンドといわれるくらい引っぱりだこだから、当然腕利きプレイヤーが揃う訳だ。感心したのは、歌手陣が優れていることで、男女それぞれのボーカリストのソロに加え、バンドメン3人が加わって「チャタヌガ・チュー・チュー」や



「ウィンター・ワンダーランド」などを、男女混声コーラスの美しいハーモニーできかせた。演奏だけのインストゥルメンタル曲は、日本のバンドも結構上手に演奏するが、このコーラスだけは、とても本場には敵わないだけに、貴重なききものであった。

指揮者のラリー・オブライエンは、グレン・ミラーと同じトロンボーン奏者で、端正な美男子のジェントルマン、グレン・ミラーオーケストラの指揮者になってもう大分経つが相変わらず若々しいリーダー振りだ。プログラムについてたずねると、「グレン・ミラーのヒット曲は、皆よく知っているから、オリジナル演奏に忠実に演奏するよう心掛けている。グレン・ミラーのレパートリーは、数百曲に及び、今のファンに余り知られていないが、非常に優れた演奏が沢山あった。そういう曲も新しく紹介するように努めている」とのこと。ラリー・オブライエンのトロンボーン・ソロをフィーチャーした「スカイラーク」や「ダニー・ボーイ」、ジェリー・グレイの作編曲したアップテンポの「ワルツへの招待」がその好例だ。ラリー・オブライエンがプログラムを新鮮にして、ファンに飽きられないように努めている鑑識眼の良さを物語るものだろう。グレン・ミラー・サウンドこそ、世界に平和をひろめる音楽的使徒たり得るものであろう。

(瀬川 昌久)